

主は私の受ける分 - The Lord my Portion

ウォッチマン・ニー

12月1日

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである【ヨハネ 3:16】

このかけがえのないみ言葉は三つの点を明らかにしてくれます。偉大な事実、偉大な条件、そして偉大なる結果です。偉大なる事実とは、神が人間の罪を償うための世界の救い主としてイエス様を遣わしたことです。偉大なる条件、すべての人間がしなければいけないことは、ただ信じることです。偉大なる結果とは、事実すばらしいことであり、人間には考えもつかないことです。信じるものは誰一人として滅びることなく、永遠の命を受けるのです。今述べたこのこと以上にすばらしい真実はこの世にありません。偉大なる条件、要求が、私たち一人ひとりの前に置かれ、それを満たすようにと示されました。すなわち、神が成し遂げたこと、その事実を信じることです。これだけが、ただひとつの条件です。偉大な事実が神によって成されましたが、偉大な条件を人間たちが満たしました。そして、滅びることなく永遠の命を持つ、この偉大なる結果のおかげで、人は救いを持つことができるのです。

12月2日

イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」【マタイ 16:15-16】

教会というものは、キリストが地上に残している声です。神は地上に教会を置き、これによってキリストを宣言し、告白しました。『主には力があり支配されることを私は信じる。主に栄光があることを信じる』、ペテロにとって、心の中でこう言うだけで終わるのは絶対に認められないことだったでしょう。ペテロだけは、『主よ、心の中であなたを信じています』という言葉は十分ではなかったでしょう。主が尋ねられた質問は、『あなたがたは、わたしをだれだと言いますか』でした。ここで言う、『あなたがた』は使徒たちです。したがって、彼らに求められたことはただひとつ、声に出して叫ぶことでした。私たちは心の中で信じるだけで十分、一人で祈るほうがよい、と考えることがあります。しかし、ハデスの門も決して教会には打ち勝てないことを知れば、ナザレのイエスが誰なのかを宣言することがどれほど、命と力と権威に満ちているか、理解することができるはずで

12月3日

だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます【マタイ 7:24】

賢い人とは神のみ言葉を行う人であり、愚かな人とはそれに従わない者のことです。岩は主の言葉をあらわしており、砂とは人間の考えのことです。岩の上に立てるとは、あらゆることを神のみ言葉に基づいて行うことです。『主を恐れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは悟りである【箴言 9:10】』。ですから神の前でただ素朴な心でいることは賢く、主に逆らう者はおろかです。『おそらく』とか、『私個人の意見では』など言うのは本当に愚かなことです。なんでも神に従うと、人間にはどうしようもなく愚かに見えるかもしれませんが、神にとっては真実の知恵と写ります。

12月4日

信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです【ヘブル 11:1】

これが聖書による信仰の定義です。『確信』とはなんでしょうか？ギリシャ語(hupostasis)では、この言葉は、『下に立つ』、『支える』ことを意味します。上にあるものを支える何かということになります。本は、たとえば、本棚に置かれていますから、本棚は本を支えるものです。『保証』とはどういう意味でしょう？この言葉は、『証明』とは何であるか、教えてください。すなわち、信仰とは、希望していた何かを支えてくれるものであり、それによって、私たちの心が平安を安らぎを見つけることができるのです。信仰は、また私たちの中でまだ見たことのないものを証明し、これにより、神が言ったことに心からアーメンと言えるようになります。

神は真実なお方です。神の誠実さは、その約束と契約を保証してくれます。もし私たちが信じなければ、神の言葉にも嘘があるかのように、神の誠実さを侮辱することになります。ですから、私たちが信じられない時はいつでも、自分自身の不信仰を罪として咎め、主に対し、信じられない曲がった心を取り除いてくださるようお願いしなくてはなりません。

12月5日

平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンを踏み砕いてくださいます【ローマ 16:20】

私たち信者は、主から選ばれたものであり、悪魔の試みと力を滅ぼす目的で呼び入れられたということを忘れてはなりません。何かするにあたり、それがよいか悪いかではなく、むしろ、それが神の利益となり、サタンの不利益となる

かどうかを尋ねなさい。闇の王国を揺るがし、悪魔に害を与える力がなければ、私たちはそれを行いません。

すべての私たちの働きにおいて、目に見える結果によらず、それが霊的な世界に与える影響、誰が利益を得、誰が損害を受けるか、それに基づいて判断しなくてはなりません。これは霊的な戦争であって、血肉の働きに対して対価が支払われるものとは違います。これはまた、審判の日に裁きの尺度ともなるものです。ある働きが火に投げ入れられるか、生かされるのか、その違いは神の御心を達成するためにどれだけ有効であったかに基づいて決まります。

12月6日

わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る。』と告げなさい【ヨハネ 20:17】

この箇所は私たちには、神と父があることを語っています。では、父としての神、神としての神、この二つの違いは何でしょうか？聖書の示すところによれば、父としての神は、神と個人とのかかわりをあらわし、神としての神は、神と宇宙全体とのかかわりを意味します。

神を父として知ると、その胸のうちに飛び込みたくなりますが、それに対して、主を神として知ることによって私たちは自ずと地面にひれ伏して礼拝せずにはいられなくなります。私たちは神の子供であって、神の愛の中に生き、授けていただけるものは何でも喜んで受け取れる者です。私たちは神の民であって、神を褒め称え、礼拝するものとして、自分たちの土地に立っています。主を神として知ること、私た



ちは『聖なる飾り物を着けて主にひれ伏す(詩篇 29:2)』のです！詩篇の作者が、『あなたを恐れつつ、ひれ伏します(5:7)』と歌うように。もし人が、神を神として知れば、どうして主を恐れずにいられるでしょうか？

12月7日

そして彼らに言われた。『わたしの家は祈りの家と呼ばれる。』と書いてある【マタイ 21:13】

教会の祈りについて語るとき、私たちは、私的な祈りと変わらないくらい気にかけていますし、個人的な祈りと同じように大切に考えています。それでもなお、天の御国においては、何かある人物にできないことがあれば、お互いが協力し、助け合って成し遂げることが決まりであることを覚えてください。とくに祈りの問題においては、相互の協力が必要となります。主のすぐ後を付いていく者はしばしば、他の信者と共に祈る必要性を感じます。時には、彼らは自分の祈りが不適切であると感じます。とくに何か極めて大きな問題、たとえば天の御国に関して祈るような時は、教会全体の力を必要とします。マタイ 21:13 で主はこう言われています、『わたしの家は祈りの家と呼ばれる』。ここに、ヘブル書 3:6 の『私たちが神の家なのです。』を加えてもよいでしょう。

12月8日

だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にしなさい。麦のほうは、集めて私の倉に納めなさい、と言いましょ【マタイ 13:30】

麦は乾かさないとはいけません(水が必要なブドウと違います)。ですから、日射が必要です。刈り入れの時期を決めるのは、中に残っている水分の量です。煙突と屋根は刈り入れの前に完全に乾かしておく必要があります。ここで、われわれはみな、麦であり、乾かさなければなりません。すなわち、この世の楽しみを求めることをやめるのです。『麦は地に向かって乾いてゆき、天に向かっては熟していく』、鋭くもこう言った人がいます。日光は、過酷でありながらも、麦が生長し熟すのを助けるものであり、霊的に言えば、世を愛する私たちが乾き切るために必要な試練を現しています。麦を使って聖人、王国の御子を現された神の知恵は実に深いものです。神は、ご自身が刈り入れる前に、私たちが熟すのを待っておられます。信者の携挙の時は、ある意味、その成熟の度合いによって決まるのです。

12月9日

立ち上がって、町にはいりなさい。そうすれば、あなたのしなければならぬことが告げられるはず【使徒9:6】

あなたに何をさせたいかは、ここでは言わないが、他の誰かが教えてくれる。上の言葉で主が意味したのはこういうことです。主は、他の誰かを使って、パウロに語りかけました。これはキリストの体を啓示するものです。パウロが救われた初めの日、主は彼にみ体の律法、本質を表されました。パウロはいずれは主に大いに用いられる器となる者でしたが、それにもかかわらず、主は他のものに彼を助けさせたのです。ですから、私たちも、神のみから直接すべての物を受けるのだから、他の人に頼る必要はないなどと決して考えないようにしましょう。もちろん、これは他人に盲目的に追従することを教えているものではありません。しかし、私たちにこう警告しています。すなわち、私たち自身が主の言葉を受けて、あらゆる問題を人の手を借りることなく解決できるなどと考えて、高慢な態度をとることがあってはならないと。

12月10日

なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したから【ローマ8:2】

このいのちの原理の性質とはどのようなものでしょう？その性質とは、ある線に沿って無意識のうちに働きます。たとえば、耳は無意識のうちに聞くし、目は本能的に見ます。意識してそうしむける必要はありません。舌が食べ物を楽しむのも同じで、良いものは自然に飲み込み、悪いものは吐き出します。どちらも、意識的な努力は必要ありません。神が私たちの中に入れるものとはいのちであり、このいのちとはそれ自体が原理なのです。

以下のように考えてみましょう。枯れた桃の木にこう話しかけるところを想像してみてください、『あなたには緑のはと赤い花があるはずだし、時機が来れば桃の実を結ぶのではないですか』。一年の初めから終わりまでこう言い続けようとも、何も得られません。その木は枯れているのですから。しかし、まだ生きている桃の木であれば、あなたが頼まなくても、自然に芽、葉、花を付け、実を結びます。これは、自然に働く、いのちの原理と呼ばれるものです。

12月11日

主であるわたしは変わることがない【マラキ3:6】

神は決して変わりません。主イエス様の働きにも変わるということはなく、御霊もまた、変わりません。何も知らない子供は、雨の日には太陽が消えてしまったと考えます。そして、父親に太陽はどこに行ってしまったのかと尋ねます。階段を上がって、少しでも太陽に近いところから見ようと試みますが、決して見えません。それでもあきらめず、近くの火の見やぐらに登ってみても、やはり太陽を見つけることはできません。しかし、実際は、太陽は変わったわけではなく、ただ黒い雲の後ろに隠れていることを私たち大人は知っています。まったく同じように、信者にとっての太陽も変わりません。ただ、信者の感情方が変わるのです。自分の心の空に黒雲が立ち込め、太陽の光が視界から遮られてしまいます。信者が自分の感情の中だけに生きれば、その人の空は簡単に変わってしまい、いつも厚い雲の後ろに隠されてしまいます。しかし感情に頼って生きることをやめれば、空が変わってしまうことはなくなります。私たちは感情と言う黒い雲よりも上に生きなければなりません。

12月12日

信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝しました【ヘブル11:21】

神はヤコブの杖について自らの言葉で語っておられます。家から出て行ったときも、家に帰ってきたときも、エジプトに向かった時も、その人生を通して、ヤコブはいつも杖を持っていました。これは、人生全体を巡礼者として生きたことを示しています。だからこそ、神は喜んだのです。

これからは、私たちも巡礼者としての人生を送ることになります。世の暮らしに戻ることはないのです。あなたの手には杖がありますか？エジプトに残るか、それとも、荒れ野を旅して約束の地、カナンに達するか、あなたはどちらだと思えますか？あなたが住む世界は、単なる通路に過ぎないはずであり、死んだ後は墓石しか残らないのです。通路と墓石、この二つの他には、あなたはこの世と何のかかわりもないのです。

12月13日

ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとえ多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です【Iコリント12:12】

マタイによる福音書を読むとキリストのある面を知ります。マルコによる福音書を読むと、キリストの別の顔に気が付きます。ルカによる福音書を読むと、キリストの清さの更に違った側面が見えてきます。そして、ヨハネによる福音書を読めばキリストの栄光についてまた別の面を見ることがで

きます。これに加え、ペテロの手紙を読むと、キリストの荘厳な輝きを拝し、パウロの手紙を読めば、そこにはキリストのことがまた別の形で表されています。また、ヨハネの手紙をたどれば、キリストの栄光ある美しさの記録は、これまでに書かれたあらゆるものに勝ると告白せざるを得ないのではないのでしょうか。これらすべてのことから、私たちの主は誰よりも偉大なお方であり、信者は年齢や国籍にかかわらず、主のことを語らずにいられないと言えるのです。キリストのみ体は、主の命、そのさまざまな美しさと栄光が、個々の器官を通して、現れているところです。

12月14日

イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょう。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。』【マタイ 24:2】

人間の目に見えるものは外面であり、一時的なものに過ぎませんが、主はその霊的な力によって、視覚を超えて、見通すことができます。現在の人間の目に、美しく映るものはこの世であり、文明化されているのは物質に過ぎません。しかし、主の持つ霊的な視覚を通せば、人間にも、この大地とそこにある物質のすべてはいつかは焼け落ちるという事実を覚えることができます。私たち信者は、なぜ、それでもなお、この世のものを心を奪われるのでしょうか？弟子たちには分かりませんでした。世界がどれほどよいものであろうと、すべてが火の中で燃え尽きる日がくるのです。

12月15日

このように、キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかかわりを断ちました【I ペテロ 4:1】

ここで言うのは、どのような武器でしょうか？これは最良の武器です。キリストが苦しみを受けたときと同じ心で武装しているからです。神に従順である時はいつでも、あなたの人生はとても苦しいものとなり、誰からも厳しい扱いを受けると、告げられます。これに対応して、あなたはキリストのこと、主がどれほどの苦しみを肉において受けたかを想い、このため、あなた自身も苦しみを受けなければならないことを思います。

これが私たちの武装です。私たちは苦しみを受けます。苦しみは私たちの義務だけでなく、私たちの祈りでもあります。苦しみを受けるのは私たちの仕事のようなもので、私たちはこれを心から喜んで受け入れます。このような武具で武装すれば、あなたと私は何者をも打ち負かすことができます。苦しみを受けることを恐れず、むしろ、喜んでそれ

を受け入れるのです。苦しみを引下ろさず、逆に自分から向かって行きましょう。

12月16日

心のきよい者は幸いです。その人は神を見るからです【マタイ 5:8】

『心がきよい』とは、ただ神の栄光と御心になることだけを目的としているという意味です。このような人は神が得るもの意外は何一つ求めません。神は、探求するものであると同時に最終的な答えでもあります。このような人はただひとつのものを探しているの、ただひとつのものをみます。その人は神を求めるところ、神を見るのです。『彼らは神とキリストとの祭司となる』(黙示録 20:6)。司祭とは神を見る人のことです。誰も、神を見るという恵みを失うことがありませんように。

12月17日

それについて偽って誓った物全部を返さなければならない。元の物を償い、またこれに五分の一を加えなければならない【レビ記 6:5】

罪のためのいけにえと罪過のためのいけにえにはその性質において、基本的な違いがあります(第2節を参照)。罪のためのいけにえは『なだめる』ために行われる、罪過のためのいけにえは『償う』ために捧げられるからです。

私たちの罪は、神の前で、神の子羊の流された血を通して、和らげられなければなりません。しかしながら、私たちが人間に対して犯した罪は、どのような物であろうと、それは償わなければならない、和らげることはできません。預りものに関して不実を行ったり、不適切なやり方で利益を得た場合は、それを相手に対して償う必要があります。償いをしないのなら、罪過のためのいけにえを捧げることはできません。主イエス様の血を通して神の許しを得ることは真実です。しかし、人に対して罪を犯しながら、それを償うことを拒否すれば、神との対話は失われます。過去に行ったことを考えると、良心が咎められるでしょう。そのような状態で、神と自由に交わることはできません。

12月18日

キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです【コロサイ 3:11】

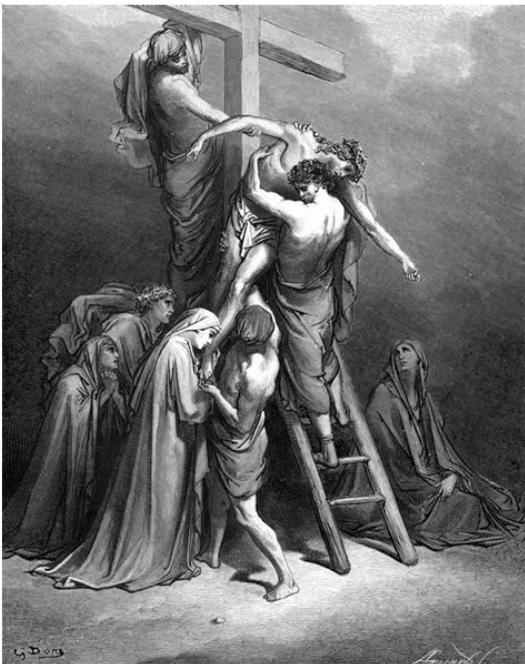
イエス・キリストは信仰の創始者であり、完成者であると言われています。私たちの信仰は、主の中に始まり、また、主の中に終わります。私たちが信じるものは、ただ主の中にのみあります。私たちはただ、主だけを追い求めるなけ

ればなりません。神聖さ、勝利、完璧な愛、御霊による洗礼、魂を獲得したいと言う渴望、どのような霊的な闘いも私たちの主への思いを奪い去ることはありません。初めから終わりまで、それは主イエス様ご自身です。私たちの信仰は主を終わりであると共に、始まりであると捉えます。主以外には何も見るものはありません。当然のことながら、主イエス様を見つめ続けければ、清さ、勝利、そしてこれらのもののすべてが私たちのいのちの中に現されます。許し、正しさと再創造がキリストの中にあります。御霊の清さ、勝利、完全さも同じようにキリストの中にあります。キリストこそすべてです。主は、すべての始まりの始まりであり、すべての終わりの終わりです。簡単に言えば、私たちのすべては主のうちにあるのです。

12月19日

あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです【創世記 3:5】

神にとって、その外側からなされた行動はすべて罪です。『神のようになりたい』、たとえば、これは立派な願いです。しかし、神の命令をきいて、神の時を待つことなしに、これを試みようとすることは、神の目には罪と映ります。私たちはいつも、悪い事柄を罪とみなし、良いことを正しいと考えてしまいます。神の考えは、しかし、これとは異なります。良いものと悪いものを見かけで区別するのではなく、神は物事がどのように成されるかを見極めます。物事が世の中に対してどれほど立派に見えようとも、神の御心を求め、神の時を待ち、また、神の力により頼むことなしに、信者が



行ったことはなんであれ、神の目には罪を犯したことになるのです。

12月20日

彼らは、没薬を混ぜたぶどう酒をイエスに与えようとした【マルコ 15:23】

これは十字架の上で引き起こされる痛みを和らげるためだったと言われています。しかし、私たちの主はそれをお受けになりませんでした。主は苦しみを避けることを拒まれました。この世に来られる前、主は『まずすわって、その費用を計算』しました(ルカ 14:28)。主は世のすべての罪人を心から愛されたので、彼らのすべての苦痛を喜んでその身にお受けになったのです。主はむしろ、罪びとの死を、ただこの一度で完全に味わい、これによって、彼らが永遠の命を受けられることを望まれました。主は罪びとの中にあるあらゆる苦しみを敢えてご自身に受けられましたが、こうすることで、彼らが主の正しさを喜ぶことを望まれました。

12月21日

これは、神の御前でだれをも誇らせないためです【I コリント 1:29】

信者の進歩を、生活と仕事において最も妨げる要因はその肉にあります。その人は自分のすべての肉を否定するという神の呼びかけに気付いていないのです。罪から離れるだけ十分だろうと想像しています。神の働きを助けるための自己の能力、情熱、知恵に対して、また、霊的な生活における自分の善良さと力、このどちらに対しても、神は同じくらい不満足であることを、その人は知りません。肉に従って私たちがよいと考えるもの、肉の手段によって私たちが計画し、巧妙に用意するものは何であれ、私たちが拒否し、死へと明け渡し、神に基づいて審判を受けなければいけないものです。主には、肉の助けは何の役にも立ちません。それは、霊的な生活、霊的な働き、どちらにおいても同じです。

12月22日

神の霊は水の上を動いていた【創世記 1:2】

『動いていた』は元の意味では、『浮かんでいた』とか、上を『漂っていた』と言うことになります。この意味からは、親愛と思いやりを示す絵が浮かんできます。ここにあるのは、母鷺と子鷺を描いた申命記 32 章 11 節と同じ言葉です。神もまったく同じではないでしょうか、『わしが巢のひなを呼びさまし、そのひなの上を舞いかけり、翼を広げてこれを取り、羽に載せて行くように。』。私たちが神の愛に応えら

れますように！神のみ心はどれほど私たちが求めいること
でしょう！そして、私たちは何者なのでしょう？罪びと以外の
何者でもありません。堕ちた人間に過ぎません。それで
も、主は私たちに怒っておられませんし、私たちが蔑むこと
も見放すことも決してありません。神は、私たちの上に精
霊が『漂う』価値がないとは決して考えません。

12月23日

空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉
に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の
父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、
鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか【マタイ
6:26】

『神にできるだろうか？』、とか、『神はしてくれるだろ
うか？』とたずねる者は、自分の不信仰をあらわにしてい
ます。神への信仰なしに生きることは、人間にとってなんと
言う苦しみでしょうか。私たちの悩み事はただ神を信じるこ
とによってのみ、和らげてもらえます。神がこの世界を5日
間で造り上げた後、6日目に人間を造られました。神は人
間を作る前に、必要なもののすべてを用意されました。私
たちはよく、自分たちが初めの日に造られたと想ってしま
います！

心配しても何の助けにもならないと分かっているのに、な
ぜ心配してしまうのですか？助けがあるなら、心配する必
要はありません。誰も助けてくれないなら、心配しても、や
はり意味はありません。

12月24日

誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていないさい
【マタイ 26:41】

クリスチャンがもっとも攻撃を受けやすいのは祈っている
時であることは、みな知っています。他のことをしている時
は、夜 11 時、12 時まで人と話していられるし、深夜遅く
まで働くこともできます。しかし、夜 9 時に祈ろうとすれば、
何かが足を引っ張り、もう眠りたいと思うでしょう。なぜ、初
めは調子よかったのに、祈り始めた途端に疲れた気分にな
るのか、理解できないと思います。

あなたを祈らせないように妨げる敵がいるのだと考えれば、
これは説明がつかず。敵は、あなたが天国に語りかける
回線を切断したいのです。祈りの力を知っているからです。
祈りによって、彼の活動は制限され、天国からの力をもた
らすことをよく知っているのです。

12月25日

イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムで
お生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサ
レムにやって来て、こう言った。「ユダヤ人の王としてお
生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たち
は、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいり
ました。」【マタイ 2:1-2】

人が飢えていなければ、神は啓示を与えないでしょう。東
方の博士たちはおそらく、神に仕え、神を求めてきた人た
ちなのでしょう。もし、私たちに死んだ知識しかなければ、
パリサイ人ようになってしまいます。聖書のみ言葉は
知っていても、天国の光を見ることはできません。彼らは、
救い主のことを、聖書のみ言葉で非常に詳しく知っていま
した。しかし、天国の星が現れたのを見て、彼らは救い主
の降臨をみとめたのです！天に現れた星とミカ書(5:2)の
予言が必要でした。神の啓示を受け止める条件とは、待つ
こと、そして求めることです。

12月26日

それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊に
よって禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤの地方を
通った【使徒 16:6】

私たちは神の僕であることを見てみましょう。主は、自分の
働きを私たちに任せてくれますが、その僕に指示する権威
は、手の内に維持しておられます。思い出してみてください。
アンテオケにおいて聖霊が主の僕たちに働きをさせるため
に呼び出しましたが、パウロとシラスは自分たちが選択し
たアジアには行けませんでした。主の僕がどこへ行くか、
それを決める権威は永久に聖霊の手の内にあります。問
題は、この時、アジアの誰か必要があったかではなく、アジ
アにおいて神に必要なかと言うことでした。私たちが
主のために働く力を与えてくれる御霊が、働くための行く
先とその時を定めてくれることを、使徒行伝が教えてくれる
のは素晴らしいことです。働くにあたって私たちの責任は、
神のその時々必要を支えることにあります。

12月27日

するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し
働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことば
どおり、網をおろしてみましよう。」【ルカ 5:5】

すべてのものは神の所有物であり、神にできないことはあ
りません。だから、神こそがすべてであるはずで。すべて
は御霊の力のうちに成されなければなりません。もし人間
がほとんどゼロになってしまったら、神のみ言葉も大きな
痛手をこうむる、あらゆるものが前に進むことを止め、すべ
てがいつせいに消え去ることはないにしても、その実は衰
えてしまうだろう、と考える人がいます。しかし、私たちに

とって大切なのは、本物の霊的な働きであり、神の前に生る御霊の実です。

御霊の働きは、たった5分でも霊的な役に立ちます。一晩中、ずっと仕事をして何もしない私たちと違います。主の命令が下るまで待って、ただの一投げで網いっぱい魚を捕まえるほうがはるかによいのではないのでしょうか？

12月28日

神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです【ピリピ2:13】

ある女性が亡くなったとき、その墓石にはその人自身の言葉が刻まれました、『彼女は自分にはできなかつたことをなした！』

私たちはとても通り抜けられない厳しい日々を送っています。私たちが完璧な救いを得て、清い生活を送ろうと思えば、それは神のみ業でなければなりません。多くの人がキリストの真似をしようとしますが、絶対にうまく行きません。しかし、神がなされるから、私にできるのです。神が私の中で働かれるのだと言う事実を早く認めてください。働くのは私ではありません。神が初めに働かれるから、私が働くのです。聖書にある崇高な要求を、私が自分の力で為そうと試みても、それは失敗する定めにあります。私がしなければいけないのはただ、私が望むだけ、私の中で働いてくださいと神に頼むことだけです。

12月29日

その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさん物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』【マタイ25:21】

霊的な事柄においては、『時』は『永遠』のためにあることを認めなくてはなりません。すなわち、今のこの時に行う働きは、私たちが永遠に用いられたための準備に過ぎないと言うことです。神が、私たちを今、この場所におかれたのは、永遠の中で用いられるように訓練するためです。時間とは、霊的な訓練と教育を受ける学校のようなものです。今、この時に受けている霊的な訓練と教育が、永遠の中で、私たちが真に神の役に立つようにしてくれます。黙示録22章から分かるように、私たちは永遠の中でさえ神に仕えるのです。今日、主が私たちを神の子供たちの間におかれるのは、私たちが彼らと共に学んで、主に用いられ、永遠に仕える準備をするためにです。

12月30日

すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです【Iコリント15:22】

私たちは、みなアダムにある以上、誰もが罪人であることを忘れてはなりません。アダムから生まれたものはみな、アダムの性質を受け継ぎます。私たちの中の罪人は、簡単にかんしゃくを起こしたり、ためらいなく嘘をついたりします。それは、アダムの命、性質や行いが私たちの中に流れ込んでくるからです。さて、私たちの救いの道は、神が私たちを良くしてくれる事ではなく、私たちをアダムから救い出し、キリストの中に入れてくださることにあるのです。これによって、キリストにあるすべてのものが私たちの中に流れ込んでくるようになります。私たちがアダムの中にあるときはすぐに罪を犯すこと、私たちがキリストの中にあるときのみ、義を実践できることを聖書は示しています。次のことに注意してください。私たちの多くが心の中に秘密の場所を持ち、そこに間違いが潜んでいます。それは神が私たちを変えてくれることを待ち望むと考え方です。しかし、神は私たちの内に何かをやるということは決してありません。そうではなく、私たちの中にキリストを入れてくださるのです。

12月31日

しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、…【黙示録1:17】

神はこの世界の始まりを作られましたが、では終わりはどうなるでしょう？この質問に対しては、神ご自身が答えを出されています。黙示録の第1章で、主による宣言がなされています、『わたしは、最初であり、最後である』と。これは、イエス・キリストの黙示です。そして、同じ書の最終章(22:13)で主は、『わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。』と、再び宣言しています。これもまたイエス・キリストの黙示です。

言葉を換えて言えば、神が始めたことは、真実をもって終えられるということです。かつて、エデンの園で解決できなかった問題も、後に解決されます。主のあがないは完全に完璧なものです。そして主の永遠の計画は実行されなければなりません。今日解決できなかった問題はすべて、主がやがて来る日に解決してくれます。神に感謝しましょう。来るべき日にはキリストがすべてのものを完結してくれます。主は、最後であると同時に最初でもあるからです。これは、故に、イエス・キリストの黙示です。神は私たちに示されます。最初であり最後であるこのお方ご自身が、まことにすべての問いへの答えであることを。